Ⅲ. 民間ホール・劇場ヒアリング調査結果

1. 東京オペラシティコンサートホール

ヒアリング記録 1997/10/29

財団法人東京オペラシティ文化財団｜プロデューサー 国塩哲紀氏(以前、岡山シンフォニーホール在籍)

東京オペラシティコンサートホール概要

- 平成9年9月10日開館。京王新線初台駅近接地に国と民間共同で建設された劇場都市"東京オペラシティ"内の中心的施設。
- 東京オペラシティは、国により建設・運営される第二国立劇場、民間により建設・運営される東京オペラシティコンサートホール、同リサイタルホール(286 席)、同アートミュージアム(1999 年秋完成)といった文化施設のみならずオフィス、商業施設をも併せ持つ大規模複合開発である。
- 東京オペラシティコンサートホールは座席数 1632 席、シューボックス型のクラシック音楽専用ホールでパイプオルガンを設置している。
- 当ホールの施設管理は東京オペラシティアーツ株式会社、当ホールでの自主公演の企画・制作は(財)東京オペラシティ文化財団が行っている。

1. 東京オペラシティコンサートホールにおけるホール間ネットワーク活動

- 今年9月にオープンした当ホールでは、オープニングシリーズをはじめとした独自企画の自主公演を初年度約60公演手掛けており、次年度以降の事業のいくつかは他のホールと組んで公演を実施できればと思っている。
- 共同公演とする場合の相手先は公立ホールが中心となろうが、その候補は常日頃から情報交換を行っている人的つながりのあるホールであり、その中で企画内容に適しかつ担当者が意欲的であるホールに声を掛けることとなろう。
- しかし、他ホールと組むにしてもまずは当ホールとしての存在意義(キャラクター)を明確化することが重要であり、これが他ホールと組む前提になると考えている。キャラクターがあって初めて接点(類似点)のある他ホールと組む意味が出てこよう。例えば、限定的ではあるがクリスマスのパイプオルガン公演をサントリーホールとアクトシティ浜松が組んで実施したと聞いている。当ホールでもパイプオルガンを所有しており、パイプオルガン保有の他ホールと組んで公演を行ってみたい希望は持っている。
- 大都市圏(東京・大阪)ではまだまだホールが足りないと言われているが、実は官民ホール間で役割分担が出来ており、不足しているのは地元アマチュア団体等の公演の場として低廉な料金で利用できる公立ホールである。商業公演をリードしている民間ホールは既に量的には充分な状況にあるのではないか。

2. 公立ホールのネットワーク活動実施に対する見解

- 10年前頃からのホール建設ラッシュ、7～8年前頃からの各自治体での文化財団設立ブームを背景に、500～1,000 席の特性が類似した中小ホール間でのネットワーク活動

が最初に行われ始めた。しかし、これらの中には各ホール間での足並みが揃わずにうまくいかなかった例もあるようだ。

- 岡山シンフォニーホール(平成 3 年開館:2,001 席)在籍時代には、一度徳島県の民間プロモーターからの誘いでオペレッタ公演をネットワークを組んで実施(地域創造による助成事業)したことがある。しかしそれ以外では自発的に他ホールと組むことは行わなかった。その理由としては、他ホール担当者間で構想段階の話しは持ち上がるのだが、いざホール内で検討を始めると上層部の説得と予算確保が難しいためである。
- この経験から、他ホールと公演を共催するには、まず自分のホールの姿勢(理念)を明確化し、他のホールから手を組んでも良いと認められるホールを目指すことが先決であると考えている。ホールの姿勢を明確化することで、初めて共通する姿勢を持つ他ホールとのネットワーク活動が意味をなし、外部からの認知が得られるとともに、継続的な活動が可能となるのではないか。
- 実際のホール間のつながりは人的つながりであるといっても良い。この人的つながりを継続的に保っていれば、時間はかかるかもしれないがその中から良い企画が生まれてくるのではないか。このホール間のつながりを継続していく上での最大の課題は、担当者が異動してしまうとせっかく築いたホール間の関係が継続されにくい点にある。
- 官民を問わず、事業の企画担当者と館長クラスの上層部で目指すべき目標に差が生じてしまっているところにも、ホール運営上の課題がある。具体的には担当者は企画内容を重視する一方、上層部は入場者数に重きを置くため、企画内容が集客性を重視したものにならざるを得ないホールが少なくない。特に一つの事業を複数館で行うネットワーク公演の場合には、各ホール毎での集客実績に差が生じた場合に、その公演に対する評価がホール毎に分かれ次年度以降の継続性に影響を与えることも考えられる。その意味で、担当者レベルだけでは実際の事業進捗がスムーズに行えないケースもあるため、館長レベルでのつながりも必要であろう。
- 現在、ネットワーク活動へ参加しているホール間でも参加姿勢により「事業の一環として補助的活動と位置づけているホール」と「ネットワーク活動に頼っているホール」の大きく 2 つに大別されるのではないか。既に自立したホールでは、ネットワークを組まなくても充分集客力を確保しているところも出てきており、一概にネットワークを組むことにメリットがあるかという点も充分に検討が必要であろう。
- 現在の公文協に参加しているホールをみると、自主事業を行っているホールが少なく、公文協自体にはホール間ネットワーク活動に対する積極的な印象をあまり受けない。
- なお、他ホールだけでなく、同一自治体内の別セクションとネットワークを組むことでも企画の幅を広げられる。例えば、以前岡山に九州交響楽団を招聘したときには、同時にホールのあるビルのイベントスペースで行った小倉祇園太鼓の実演が好評であった。また、同時に物産展等をセットしたり、他地域から観光とセットでツアーを組んでコンサート鑑賞を行ってもらうような事業も可能となり、より面白い企画となるのではないか。

以　上

2. カザルスホール

ヒアリング記録　1997/12/12

㈱お茶の水コミュニティハウス　アウフタクト｜チーフプロデューサー　児玉　真

カザルスホール概要

- 1987年10月開館。東京都千代田区神田駿河台に立地する室内楽のクラシックを対象とした座席数511席の中規模ホール。
- ホール管理運営は、主婦の友社グループの㈱お茶の水スクエアが行っており、公演の企画は、同社内部組織であるアウフタクト(カザルスホール企画室)が行っている。
- 96年公演数約320本、うち、自主公演数60本

1. カザルスホールにおけるホール間ネットワーク活動

- 当ホールの運営方針として、収益性を追求するのでなく、メセナ的発想から室内楽を運動として全国に広げるという役割を担っていると考えているため、開館当初より、全国ホールとのネットワークを意識していた。そのため、開館当初は余裕がなく実現していなかったが、降試行錯誤の結果、3年目以降に他ホールとのネットワークが機能し始めた。
- 当初は、公演経費を分担しコスト削減する目的で、当ホールにて企画した公演を他ホールへ斡旋するネットワーク公演の形態をとっていた。この場合、複数ホールでの公演を想定し、最初に予想される単価を提示し、各ホールでの検討が行いやすいよう配慮した。ネットワークの成就によってコストを計算しなおすことで、20万円程度のコストダウンが図られた公演もある。
- その後90年には、メイシアター(吹田市)荒起氏の企画により大阪周辺ホールがネットワークを組んで実施した「ベートーヴェン・チクルス」をヒントに、「ジョン・リル　ピアノリサイタル」を東京郊外のIMAホール(練馬区)、川口リリア音楽ホール(川口市)と組んで開催した。この公演から、当ホールでの企画公演を単に他ホールへ斡旋するだけでなく、共同開催ホールであるプログラムの共同検討や公演日の調整を行う共同企画面へも踏み込んだものとした。しかし、結果として、アーティストの知名度が十分でなかったことや、ネットワークを組んで公演を行うことに対する各ホールのメリットが明確にならなかった等の理由により成功とはいえない結果となり、その後、この形の共同公演は棚上げになってしまった。
- この時、理想としては、商業施設が捉える商圏の発想で音楽聴衆をとらえ、都心部(太陽)の周りに位置し、自都市の周辺にも衛星都市を有する立川市・所沢市・大宮市・津田沼市等の惑星都市のホールをネットワーク化したいと考えていた。しかし、各都市に適当なホールが揃っていないこと等から実現しなかった。
- 同様の発想で、川口リリア音楽ホール等の東京周辺都市同志でネットワークを組んで行っている「音楽祭」があるが、これも東京都心部へ観客が吸引されてしまう危機感からの発想であろう。

- しかし、最近、再びこれまでのネットワーク公演を進化させ、ネットワークを組むホールの所在する地域へのメリットを考慮した企画を積極的に行うようになった。95 年には、全国音楽ホールネットワーク協議会や地域創造の協力を得て、「ミクローシュ・ペレーニ・チェロリサイタル・日本ツアー1995」を全国 8 ホールで実施した。この時には、当ホールから公演を斡旋されたのではなく、共同して公演を制作した意識を各ホール担当者に持ってもらうため、一つのちらしで各ホールでの公演内容が全て分かる公演日一覧やホールからのコメントを盛り込んだ全ホール共通のちらしを共同制作した。
- 続く 96 年に全国 15 ホールと組んで行った「カルミナ・クァルテット　日本ツアー1996」では、当ホールからの提案により、公演以外にも各ホール独自の企画を追加してもらうことで、各地域の独自性も発揮できる公演スタイルとした。篠山町では、当地での音楽祭開催に際しスイス姉妹都市から受けるコメントのメッセージャー役をアーティストに行ってもらったり、大牟田ではチケット保有者を対象としたレクチャーを開催、新潟ではリハーサルの公開等が行われ、各地の独自性が発揮された。
- また、同じ 96 年から、各ホールの地域性や保有する悩みが異なる中にあって共通の課題となっている観客のクラシックへの理解の深化とそれによる観客の拡大を目的とした、「仲道郁代の音楽学校」を全国のホールとネットワークを組んで開催している。96 年は 6 ホール(大野城、瀬戸田、豊中、浜松、七ヶ浜、カザルス)での開催であったが、97 年には 10 ホールに拡大している。ここでも、各ホールの担当者を巻き込んで準備作業を行うことで、スタッフ参加型のネットワーク公演を目指している。
- この音楽ファン層の拡大については、当ホールでの企画以外にも、現在日本音楽マネジメント協会が、全国ベースでの「音楽の日」創設運動を積極的に展開しているが、残念ながらまだ業界内レベルの盛り上がりでしかない。
- 一方、ホールがネットワークを組み公演回数を増やしながら、一つのアーティストを育てる試みとして、「ハレー・ストリング・クァルテット」の公演を豊中市立アクア文化ホールと提携し 7 年連続で行ってきている。
- ネットワーク公演の提携ホールの選定は、担当者には大変であるが、実際に地方のホールを訪問し、担当者の話しを聞いた上で行っている。これは、公立ホールの担当者の熱意・創意工夫の力で企画の発展性が大きく変わってくるためである。そのため、原則として、ネットワークを組んだホール間での会則は設けず(組織化せず)、担当者同志の人的ネットワークを優先した形をとっている。
- これまで行ってきたネットワーク公演を通して、ネットワークを組むホールが広域に渡る場合の調整役となる中心ホールの業務量が膨大となる課題を感じている。「カルミナ・クァルテット　日本ツアー1996」のケースでは、当ホールが担当したアーティストとのコンサート以外の追加サービスについての交渉業務は非常に大変であった。
- 今後当ホールとしては、海外、特にロンドン等欧州のホールとのネットワークを構築していきたいと考えている。

2. 公立ホールのネットワーク活動実施に対する見解

- 一般的にホールで行う招聘公演は、音楽事務所からの購入が基本である。しかし、この方法には、海外アーティスト公演時の共催ホール選択の権利が音楽事務所側にあり、

同一エリア内他ホールで同一アーティストの公演が行われる可能性があることや、ホールのオリジナリティを発揮しにくいという課題がある。

- ホールが直接海外アーティストと交渉し招聘しようとした場合にも、単独ホールで呼んでは採算が合いにくい他、アーティストから国内での複数公演を要求されるため、企画ホールが音楽事務所的な業務を行う必要が生じてしまうことも課題である。
- 現在行っているような全国エリアでのネットワーク公演では、コスト削減部分が少なく、また準備段階で担当者全員が集まれない課題もある。
- 地方のホールでは、まだ演目の具体的な希望や主張は非常に少なく、何かやれればよいといった発想レベルの段階にある。そのため、地方ホール同志では企画力がまだ十分ではないため、現状では、東京のホールを中心とし、うまく活用しながら、複数の地方ホールがネットワークを組む形態が自然ではないかと考えている。
- 公立ホールを対象としたネットワーク組織への当ホールの参画事例として、「全国音楽ホールネットワーク協議会」があるが、これは当ホールの企画力を求められ参画したものである。一般的には、民間ホールが公立ホールとネットワークに参画する場合には、公立ホールからの要請を受け、ネットワークをまとめる役割を担うケースが中心であろう。その他、新聞社等のマスコミが参加しているケースでは、マスコミの宣伝力、情報力に期待しているとみられる。しかし、民間ホールが公立ホールのネットワークに加わる際に、一部文化庁や地域創造からの助成はあるものの、助成のメリットが小さい点が課題であろう。
- 民間ホールとしてネットワークを固定化(同一ホールとの継続的な企画のネットワーク化)することは、アーティストの日程に合せた公演日の調整が困難となる等、企画の自由度を低下させるリスクがあるため難しいと考えている。そのため、担当者ベースで密に連絡を取り合い、課題等を話し合う中でアーティストを紹介したり共同企画へ発展させていく形態が望ましいと思う。仮に組織化した場合には、中心となるホールのリーダーシップが要求されよう。
- また、今後の公立ホールにおいては、地元といかにしてつきあい、住民とのネットワークをいかに構築していくかが、共通かつ重要な課題となろう。

以　上

ミクローシュ・ペレーニ
チェロリサイタル
日本ツアー 1995

後援：ハンガリー大使館
企画制作：カザルスホール企画室・アウフタクト

ミクローシュ・ペレーニ（チェロ）
岩崎 淑（ピアノ）

10月19日（木）19時開演
旭川市大雪クリスタルホール音楽堂
主催：ミクローシュ・ペレーニ チェロリサイタル実行委員会
共催：大雪クリスタルホール
後援：旭川市、旭川市教育委員会、北海道新聞社旭川支社、北海タイムス旭川本社、NHK旭川放送局
協力：旭川グランドホテル
プログラムB

10月20日（金）19時開演
アトリオン音楽ホール
（宝くじ助成事業）
主催：秋田県
後援：（財）地域創造、全国音楽ホールネットワーク協議会
プログラムA

10月22日（日）14時開演
カザルスホール
主催：カザルスホール
協賛：カザルスホール倶楽部
後援：全国音楽ホールネットワーク協議会、ニッポン放送、主婦の友社
プログラムC

10月23日（月）19時開演
富山県高岡文化ホール
（宝くじ助成事業）
主催：（財）富山県文化振興財団富山県高岡文化ホール、富山県高岡文化ホール音楽友の会
後援：（財）地域創造、全国音楽ホールネットワーク協議会、富山県教育委員会
プログラムA

10月25日（水）19時開演
福崎町エルデホール
（エルデホール自主事業／エルデ室内楽コンサート）
主催：福崎町エルデホール企画運営委員会、福崎町、福崎町教育委員会
後援：全国音楽ホールネットワーク協議会
プログラムB

10月26日（木）19時開演
倉敷市芸文館アイシアター
主催：（財）倉敷市文化振興財団、倉敷市、テレビせとうち
共催：倉敷市教育委員会
後援：全国音楽ホールネットワーク協議会
プログラムB

10月27日（金）19時半開演
佐敷町文化センターシュガーホール
（宝くじ助成事業／平成7年度シュガーホール自主公演）
主催：佐敷町文化センター自主事業実行委員会
共催：沖縄タイムス社
後援：（財）地域創造、全国音楽ホールネットワーク協議会
プログラムB

10月29日（日）14時開演
秋篠音楽堂
主催：近鉄百貨店
プログラムA

[プログラムA]

ベートーヴェン：ヘンデルの「ユダス・マカベウス」の「見よ勇者は帰る」の主題による12の変奏曲ト長調

ベートーヴェン：チェロソナタ（二重奏曲）変ホ長調作品64
1：アレグロ・コン・ブリオ，2：アンダンテ，3：メヌエット，4：アダージョ，5：メヌエット，6：フィナーレ

＊

ショパン：夜想曲第2番 変ホ長調 作品9の2

リスト（ブゾーニ編曲）：忘れられたワルツ

グラナドス（カサド編曲）：歌劇「ゴイェスカス」より「間奏曲」

シューベルト（ペレーニ編曲）：楽興の時 作品94の3

ドヴォルザーク：ロンド ト短調 作品94

マルティヌー：ロッシーニの主題による変奏曲（1942）

コダーイ：ハンガリー民謡集より「ロンド」（1942）

[プログラムB]

J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲第6番 ニ長調 BWV1012
前奏曲，アルマンド，クーラント，サラバンド，ガヴォット1・2，ジーグ

＊

（以下、プログラムAと同じ）

[プログラムC]

レーガー：無伴奏チェロ組曲第1番 ト長調 作品131cの1
1：前奏曲，2：アダージョ，3：フーガ

J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲第6番 ニ長調 BWV1012
前奏曲，アルマンド，クーラント，サラバンド，ガヴォット1・2，ジーグ

＊

（以下、プログラムAと同じ）

表紙イラスト：辰巳ヨシヒロ

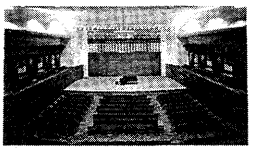
旭川市大雪クリスタルホール音楽堂（北海道旭川市）

旭川市大雪クリスタルホールは、市民運動により建設が実現した、全国に例を見ない公共ホールで、北海道初の音楽専用ホールとして平成5年9月にオープンいたしました。

以来、会を重ねる毎に評価が高まる素晴らしい音響に加えて、音楽堂内部にふんだんにほどこされた木材がかもしだす、ぬくもりとやさしさ、併せて、管理運営にたずさわるホールのスタッフの真摯で誠実な姿勢――優れたホールに不可欠な要素が揃っているとの評価をいただいております。

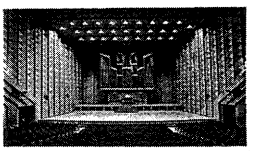
"楽器を選ばぬ良いホール"と評されるクリスタルホールですが、弦楽器とは、とりわけ見事に響き合うようであり、もう一つの評価"実に演奏しやすいステージ"で、ミクローシュ・ペレーニ氏がどんな演奏を旭川市民に聴かせてくださるのが、大いに期待しているところであります。

今回は、クリスタルホールを中心に、市民のネットワークづくりを目ざす諸団体から成る実行委員会と、クリスタルホールとが共催の形で、官民一体となって催します。ハードの評価に相応しいソフトづくりの一環になれば幸いに思います。（ミクローシュ・ペレーニ チェロリサイタル実行委員会／村田和子）



アトリオン音楽ホール（秋田県秋田市）

秋田アトリオン音楽ホールは、秋田県初のクラシック音楽専用ホールとして89年11月に開館し、貸館や自主企画コンサート等ほぼ100パーセントの利用率で今年6年目を迎えました。ケルン社製のパイプオルガンを備え、天上や壁面に「秋田杉」を張り巡らせ、木の材質を活かした柔らかくて明るいホール自体の響きが、多くの方々からご好評をいただいております。昨年度は開館5周年を記念し、県内の個人や企業からのメセナで「アトリオン室内オーケストラ」というレジデント・オーケストラを結成、年2回の定期では石丸寛氏や徳永二男氏等に指導共演いただき、順調に軌道に乗ることができました。年間20本以上の自主企画コンサートでは、ソロ、室内楽、フル・オーケストラ等幅広いジャンルの演奏家を招聘し、地域の方々にお喜びいただいており、そのほか県民オルガン奏者養成講座、小中学生対象のピクニックコンサート、昼のプロムナードコンサート等もまたご好評をいただいております。（秋田県総合生活文化会館文化企画担当／阿部智博）

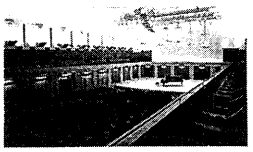


カザルスホール（東京都千代田区）

カザルスホールは室内楽専用の511席の小ホールとして1987年にオープンし、今年は8周年を迎えます。プロデューサー制の下、最初の数年は試行錯誤の連続でしたが、その間に培ってきたノウハウ（演奏家への接し方やお客様へのサービス、広報宣伝などに支えられた総合的な企画制作力）は、それなりに自負できるようになってきたと思っています。

室内楽のホール同士のネットワークは、オープン以来のテーマの一つとして取り組んできました。それも、単に企画を共同でやるだけでなく、各地の特殊事情を超えて、ホールのノウハウ全般について一緒に悩み、考えていくことだと思っています。制約はありますが、今回のミクローシュ・ペレーニのコンサートで新しいかたちを試み、確かめたいという気持ちもあります。

もちろん、コンサートはそんな事情を超えて、あくまで音楽自体を楽しむものですが、演奏家と音楽に寄せるスタッフの温かい気持ちも同時に感じてくだされば幸せです。（カザルスホール・チーフプロデューサー／児玉 真）



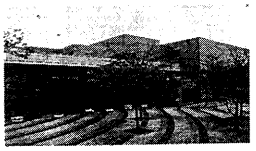
富山県高岡文化ホール（富山県高岡市）

「県民の真中に文化ホールあり」。ここ数年来、「ホール」と呼ばれる施設が著しく増加し、各地で多種多様な催し物が開催されております。そのため、確かに地域住民が「文化」に接する機会は増えたと思われます。しかし、県民からよく耳にする「気楽に足を運べるホール」「憩いの場となるホール」であるかは疑問が残ります。

それは、県民のコミュニケーションを図る場として活用されてきた、文化ホール本来の在り方が、違った価値観の方向に進んできているからだと思われます。

新しい感動と触れ合いを求めて10年の月日が過ぎようとしている当館は、まさにこれまで蓄積したものを県民に開花させるとともに、謙虚な気持ちで原点からホール運営を問い直す必要があると思われます。

今回招聘するミクローシュ・ペレーニ氏の演奏が、クラシック音楽を通して県民の要求している文化ホールに一歩でも近づくための潤滑油となり、聴衆に感動のときめきを与えることを期待します。（富山県高岡文化ホール事業担当／笹谷 努）



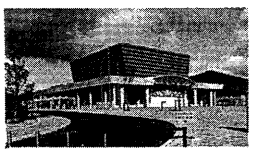
エルデホール（兵庫県神崎郡福崎町）

福崎町エルデホールは小さなホールです。収納できる移動客席が240席ですが、いろいろな催しが可能なように、平土間を意識して計画されました。

演劇・音楽などの舞台系から展示系まで、従来の観念の変化に加えて展示インスタレーション・パーティーなどの対応も考えられています。そしてまた当ホール最大の特徴として、舞台後ろの開閉壁を開き、ホールの内部空間をイベント広場と一体的使用できる構造となっており、他に類例を見ない独自の利用法が可能です。

このように特徴と個性をもったホールのため、それぞれの催しについても持ち味を生かした内容を考え取り組んでいます。今回のリサイタルについても小さな小さなホールであるがゆえの利点と、会場の雰囲気を考えて、演奏側も聞く側も親密感のある中で、リラックスした楽しめる音楽会を工夫したいと考えています。

昨年もチェロリサイタルを行いましたが、出演者や関係の方々の協力によりたいへん有意義な音楽会となりました。今年もスタッフ一同心を込めた音楽会を準備して、多数の参加をお待ちしております。（エルデホール所長／藤本守）



倉敷市芸文館アイシアター（岡山県倉敷市）

私のヴィーン在住中より、ペレーニさんの噂はよく聞いていて、「お隣の国ハンガリーにすごいチェリストがいるんだ」と、私の音楽仲間たちがおりにつけ言っていたのを思い出します。

ブダペストの街（ヴィーンから路線バスで約4時間位）へ足を運ぶ都度、フンガロトーン（ハンガリー国営レコード社）の直営店でペレーニさんのCDを探しました。結局、3、4枚程度ですが入手できたことは幸運でした。

その後に、とうとうヴィーン楽友協会にてライヴが聞けました。曲はハイドンのチェロ協奏曲、演奏の三要素（美しい音で歌うこと、音楽的音程への配慮、正確なリズム）はもちろんのこと、楽譜を超越した所にある、ある種の崇高なものをも感じさせられました。

私が常日頃から敬愛してやまぬ、偉大な指揮者のセルやライナーを輩出した、音楽大国ハンガリーの今を代表する芸術家の一人を、倉敷市民の方々にご紹介できることは、企画担当者として光栄の一語につきます。（倉敷市文化振興財団音楽企画担当／小林正樹）

シュガーホール（沖縄県島尻郡佐敷町）

佐敷町文化センター・シュガーホールは、去年の6月にオープンした沖縄で初の本格的音楽専用ホールです。シュガーホールの「シュガー」は、ご存知のとおり直訳すると「さとう」の意。ホールのまわりが砂糖きび畑に囲まれていて「音楽を包み込む美しい自然……」なんて粋なフレーズがうかぶロケーションから生まれたネーミングです。ホールの甘い甘い香りに誘われてか、これまで本当に多くの演奏家がホールを訪れ、観客との一体感のもとに、たくさんの感動を与えてくださいました。また、演奏会終了後おこなわれる交流会の盛り上がりはまさに「沖縄的」で、演奏家と観客との間に数々のドラマが生まれたことで有名（？）です。

ここだけの話ですが、実はシュガーホールは弦楽器の創り出す音に快く反応してくれるホールなのです。それで、ホールの担当としては、ぜひ一度はミクローシュ・ペレーニさんのような一流のチェリストをお招きしたかったわけで、それが実現できて本当に最高です。今夜のコンサートが、ご来場いただいた皆さまにとって、心に残る演奏会となることをスタッフ一同願っております。（シュガーホールスタッフ／宮城光也）

秋篠音楽堂（奈良県奈良市）

ブザーが鳴る。突然の信号が脊髄を駆け抜けたように、私たちは反射的に立ち上がり窓口へと駆けよる。

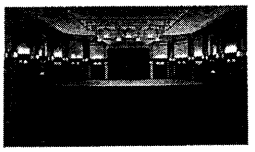
「いらっしゃいませ。いつの公演のチケットでしょうか？」

お客様はありがたい。オープンして3年、会員制を始めて約2年。やっと〈室内楽専用ホール・秋篠音楽堂〉が根づいてきたらしい。

客席数は304席のみ。椅子で脚を伸ばせる。室内オーケストラが演奏できるほど舞台が広い。木目調で気分も落ち着く。自画自賛ながら贅沢な造りではある。だからお祭しのとおり、採算には苦しむ。さすがに世の中いいことづくめの話はない。

採算と集客との板挟みで苦しむ時にふと思う。神格化された西洋が消えた。クラシックの値打ちも例外ではないのか？　しかし手をこまねいている余裕はない。現場は、新鮮な企画を現実に求められている。

小回りの利くホールの特性を生かして、いろいろな形態のコンサートを今は目指している。ファン層を広げていくのが現場の夢だ。（秋篠音楽堂ディレクター／徳永賓士）



カルミナ・クァルテット 日本ツアー 1996

CARMINA QUARTET JAPAN TOUR 1996

後　援：スイス大使館

協　力：swissair

企画制作：カザルスホール企画室・アウフタクト

出　演：カルミナ・クァルテット CARMINA QUARTET

マティアス・エンデルレ（ヴァイオリン） Matthias Enderle(Vn)

スザンヌ・フランク（ヴァイオリン） Susanne Frank(Vn)

ウェンディ・チャンプニー（ヴィオラ） Wendy Champney(Va)

シュテファン・ゲルナー（チェロ） Stephan Goerner(Vc)

ポール・メイエ（クラリネット） Paul Meyer(Cl)

（プログラムB & プログラムC）

Aプログラム

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第15番イ短調作品132

Beethoven : Streichquartett Nr.15 a-moll op.132

Ⅰ:アッサイ・ソステヌート　Ⅱ:アレグロ・マ・ノン・トロッポ　Ⅲ:モルト・アダージョ　Ⅳ:行進曲風に　Ⅴ:アレグロ・アパッショナート

*

シューベルト：弦楽四重奏曲第14番ニ短調D.810「死と乙女」

Schubert : Streichquartett Nr.14 d-moll D.810 "Der Tod und das Mädchen"

Ⅰ:アレグロ　Ⅱ:アンダンテ・コン・モート／変奏曲　Ⅲ:スケルツォ、アレグロ・モルト　Ⅳ:プレスト

Bプログラム

ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第3番ニ長調作品18の3

Beethoven : Streichquartett Nr.3 D-Dur op.18 nr.3

Ⅰ:アレグロ　Ⅱ:アンダンテ・コン・モート　Ⅲ:アレグロ　Ⅳ:プレスト

ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲第12番ヘ長調作品96「アメリカ」

Dvořak : String quartet No.12 in F major op.96 "America"

Ⅰ:アレグロ・マ・ノン・トロッポ　Ⅱ:レント　Ⅲ:モルト・ヴィヴァーチェ　Ⅳ:ヴィヴァーチェ・マ・ノン・トロッポ

*

ウェーバー：クラリネット五重奏曲変ロ長調作品34

Weber : Grosses Quintett für Klarinette und Streichquartett B-Dur op.34

Ⅰ:アレグロ　Ⅱ:アダージョ・マ・ノン・トロッポ　Ⅲ:メヌエット　Ⅳ:アレグロ・ジョコーソ

Cプログラム

モーツァルト：セレナード第13番ト長調K.525「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」

Mozart : Serenata Nr.13 G-Dur K.525 "Eine kleine Nachtmusik"

Ⅰ:アレグロ　Ⅱ:アンダンテ　Ⅲ:メヌエット　Ⅳ:ロンド・アレグロ

ラヴェル：弦楽四重奏曲ヘ長調

Ravel : Quatour á cordes en fa majeur

Ⅰ:極めて穏やかに　Ⅱ:充分生き生きと、極めてリズミックに　Ⅲ:非常に緩やかに　Ⅳ:生き生きと激しく

*

モーツァルト：クラリネット五重奏曲イ長調K.581

Mozart : Quintett für Klarinette und Streichquartett A-Dur K.581

Ⅰ:アレグロ　Ⅱ:ラルゲット　Ⅲ:メヌエット　Ⅳ:変奏曲

9月25日（水）19時開演

京都・京都コンサートホール小ホール（アンサンブルホールムラタ）

主催：（財）京都市音楽芸術振興財団

後援：京都市

Aプログラム

9月26日（木）19時開演

（国際音楽の日記念事業）

シューベルティアーデたんば'96

丹波の森国際音楽祭 ゲストコンサート

第4部「4人いっしょにシューベルト」

篠山・たんば田園交響ホール

主催：丹波の森国際音楽祭シューベルティアーデたんば実行委員会

文化庁、篠山町

Aプログラム

9月29日（日）14時開演

（大牟田文化会館開館10周年記念事業）

大牟田・大牟田文化会館大ホール

主催：（財）大牟田文化会館

共催：大牟田音楽家協会

後援：大牟田市教育委員会

Cプログラム

10月2日（水）19時開演

（平成8年度旭川市大雪クリスタルホール第4回自主文化事業）

旭川・旭川市音楽堂（大雪クリスタルホール）

主催：旭川市大雪クリスタルホール

共催：北海道新聞旭川支社

Bプログラム

10月5日（土）14時開演

奈良・秋篠音楽堂

主催：近鉄百貨店

Cプログラム

10月6日（日）18時半開演

（福崎町エルデホール自主事業）

福崎・福崎町エルデホール

主催：福崎町、福崎町教育委員会

企画：福崎町エルデホール企画運営委員会

10月9日（水）19時開演

新潟・新潟市音楽文化会館ホール

主催：新潟市音楽文化会館

Cプログラム

10月10日（木・祝）14時開演

（日本ホールサービス（株）群馬出張所開設5周年記念）

前橋・前橋テルサ

主催：日本ホールサービス株式会社

後援：（財）前橋勤労者総合福祉協会、（財）玉村町文化振興財団

大胡町公共施設管理公社、（財）榛名町文化振興事業団

（財）新田町文化スポーツ振興事業団

協力：カザルスホール、タイセイ、アルティス音楽工房

Aプログラム

10月11日（金）19時開演

（国際音楽の日記念事業）

富士・ロゼシアター 小ホール

主催：（財）富士市文化振興財団、静岡県教育委員会

後援：K-MIX

Aプログラム

10月12日（土）19時開演

（カザルスホール9周年記念特別演奏会）

西武クレシェンド・コンサート

東京・カザルスホール

主催：カザルスホール

協賛：西武信用金庫、けやき商事株式会社（西武信用金庫グループ）

後援：カザルスホール倶楽部、主婦の友社

Aプログラム

10月13日（日）14時開演

（カザルスホール9周年記念特別演奏会）

西武クレシェンド・コンサート

東京・カザルスホール

主催：カザルスホール

協賛：西武信用金庫、けやき商事株式会社（西武信用金庫グループ）

後援：カザルスホール倶楽部、主婦の友社

Bプログラム

3. PARCO 劇場

ヒアリング記録　1997/1/27

㈱パルコ　プロモーション本部事業局エンタテイメント事業部｜課長　大竹　正紘氏

PARCO 劇場概要

- 1973 年 5 月開館(85 年 7 月改名)。東京都渋谷のファッションビル PARCO Part1 9 階に位置し、演劇、ミュージカル、音楽等幅広いジャンルの公演を行う座席数 458 席の中規模劇場。
- ホール所有は㈱パルコ、自主事業企画・制作は、同プロモーション本部事業局エンタテイメント事業部にて担当、現在スタッフ 12～13 名、プロデューサー5 名の体制。
- 年間自主企画公演数　約 150 ステージ(全国主要都市での公演含む)

1. PARCO 劇場におけるホール間ネットワーク活動

- 現在、年間 150 ステージ程度の自主公演を行っているが、東京以外での公演は、札幌等 PARCO の出店している都市の巡回がほとんどといってよい。また、以下の理由から、当劇場から公立ホールへは積極的なアプローチを行っておらず、地方公立ホールでの公演は、年間 10 もない程度であろう。
- その一つ目の理由は、当劇場では、プロデュース公演という制作形態を取っており、出演者(劇団員)を長期間拘束することが難しいことにある。そのため、地方公立ホールで公演を行うケースとしては、地方政令指定都市クラスでの公演に際し、周辺市町村から誘致された場合、移動中に立ち寄るケースがほとんどである。例えば、福岡市での公演の際に、大牟田市や宗像市で公演を実施したり、名古屋市と浜松市での公演の途中に雄踏町に立ち寄ったケースである。
- 二つ目の理由は、公立ホール側スタッフの運営ノウハウや公演受入態勢が充分に整っていない点である。例えば、公演先ホールで、チケットもぎりや機材の搬出入業務を当方が行ったり、上演サイドの要求が理解してもらえない等の事例も過去にあった。
- また、公立ホールでは、民間ホールほど事業収支に重点が置かれないことや、公的資金(税金)での運営のため招待券配布による集客方法がとれない等により観客が少ない公演となることで、劇団員の士気の低下が心配されることもある。なお、ホールのハード自体が演劇を行う側からみると使い勝手が悪い設計となっている例も見受けられる。
- 三つ目の理由は、公立ホール側の担当者の異動が多く、公演の受入ノウハウの高いホールとの人的ネットワークの継続が難しく、公演を巡回させる公立ホールの選択肢が少ないことである。
- なお当劇場では、公立ホール側スタッフの異動に加え、双方の事業予算規模の違いもあり、特定の公立ホールとの継続的な公演は行っていない。以前ネットワークを継続していた習志野や調布とも、担当者の異動により現在はネットワークが途切れた状態にある。逆に、ネットワークは、ホール同志よりも担当者同志と結ばれるため、担当者が異動した

先のホールとのネットワークが新たに形成されるケースはある。

- その意味で、地方公立ホールでの公演の実現性は、そのホールに熱心な担当者がいるかどうかに左右される。中島町能登演劇堂の無名塾公演は、町民以上の観客を集める程で、担当者の熱意により成功している事例といえる。
- その他、地方都市における観客の観劇マナーや作品内容の理解度も課題である。また、公演経費が時間差を持って入金される点も、資金に余裕のない劇団の場合には制約条件となる。
- なお、地方ホールとのネットワーク公演は、公演日数の確保の点から複数のホールがネットワークを組んで交渉できれば、可能性が広がるのではないか。しかし、当劇場とのネットワーク公演は、公演者のスケジュール等を考慮すると最短でも今から 2 年先の公演しか実現が難しい。その点、劇団を相手に直接交渉すれば、すぐにでも公演が可能なケースもあるのではないか。
- 一方、東京の民間劇場と劇団の有志が集まったネットワークを結成する話も現在進行中であり、民間側でもネットワーク化が意識されはじめている。

2. 公立ホールのネットワーク活動実施に対する見解

- 公立ホール側の事情として、近年のホール建設ラッシュで、自ホールの集客可能なエリアが狭まり、周辺ホールと協調できない状況になってきているのも事実であろう。
- しかしそれ以上に、公立ホールでは、演劇や音楽にこれまで関与していなかった人材が運営を担当しているため、ホール運営の基本的な仕組の理解や、ホール活性化への努力が不十分なことの方が大きな問題ではないか。例えば、年間予算の枠内で年 1 回上京できれば、演劇関係者とのネットワークの構築は可能であろう。
- 過去の経験から、ホールスタッフが劇場運営ノウハウを習得するには最低 5 年はかかると思っている。1 年目に基礎的知識の習得、2 年目に人脈の形成、3・4 年目に公演企画の試行錯誤をし、5年目でようやく公演が成功できるようになる感じであろう。その意味で、公立ホールスタッフの担当期間が 3 年程度というのは明らかに短いのではないか。
- 過去、広島にて公立ホールスタッフ対象の運営ノウハウ養成研修の講師を行ったことがあるが、当劇場の業務もある中では、残念ながら積極的に講師を請負うことは難しいと感じている。人材のインキュベーター機能を芸術系の大学や新国立劇場に求めることはできないものか。もしくは運営スタッフの資格制度を設け一定の運営水準を確保する方法もあるのではないか。
- 時間はかかるであろうが、まずは、ホールスタッフの人材を育成することが求められる。なお、公立ホールから民間ホールへの研修スタッフ受入では、結局重要な業務を任せることができない等受け入れる側も処遇に苦労することや、派遣者側も充分な知識を習得することができるか疑問であり、高い効果は望めないと感じている。
- 地方ホールで行う公演内容をみると、芸術性の高さを追求するあまり、地元住民のニーズと乖離しているケースもみられる。そのため、ホール側で地域住民のマーケティングを充分に行い、上層部の意向と住民ニーズのミスマッチを避ける配慮も必要であると感じる。

以　上